

近畿大学 工学部
令和 5 年度 自己点検・評価報告書

数理・データサイエンス・AI 教育応用基礎
プログラム（工学部）

令和 6 年 4 月

1. 自己点検・評価の実施

工学部にて実施している「数理・データサイエンス・AI 教育応用基礎プログラム（工学部）※」について、工学部・大学院システム工学研究科自己点検評価委員会が自己点検・評価を行った。

※文部科学省へ認定申請予定

2. 自己点検・評価の対象科目

自己点検・評価の対象の科目は以下の通り。

「線形代数学Ⅰ」
「微分積分学Ⅰ」
「微分積分学Ⅱ」
「データリテラシー入門」
「データサイエンス特講」
「データサイエンス実習」
「プログラミング特講」
「化学生命工学概論」
「化学実験」
「生物工学実験」
「応用情報処理Ⅰ」
「物質化学実験」
「化学生命データサイエンス」
「確率統計学」
「プログラミング」
「機械工学基礎実験Ⅱ」
「計測工学」
「プログラミング基礎」
「プログラミングⅠ」
「プログラミングⅡ」
「人工知能」

3. 点検項目と評価

実施しているプログラムについて、以下の項目で自己点検・評価を行った。

- ・履修、修得状況
- ・学修成果
- ・学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度
- ・履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

4. 自己点検・評価結果

①履修・修得状況

学部名	学生数 R5.5.1現在	入学定員	収容定員	履修者数	修了者数	履修率 (履修者数/収容定員)
工学部	2,227	545	2,180	146	0	7%

令和5年度の本教育プログラムの履修率は全体で7%であり低い値である。ただし、プログラムの履修対象としている令和5年度入学生においては、24%の履修率となっている。今後はより履修率を高めるよう、本プログラムの趣旨の周知や受講しやすい科目設定なども検討していく必要がある。

本教育プログラムは学科により1学年から2学年又は1学年から3学年までが配当学年となる複数科目で構成しており、令和6年度から修了者を出していく計画である。

②学修成果

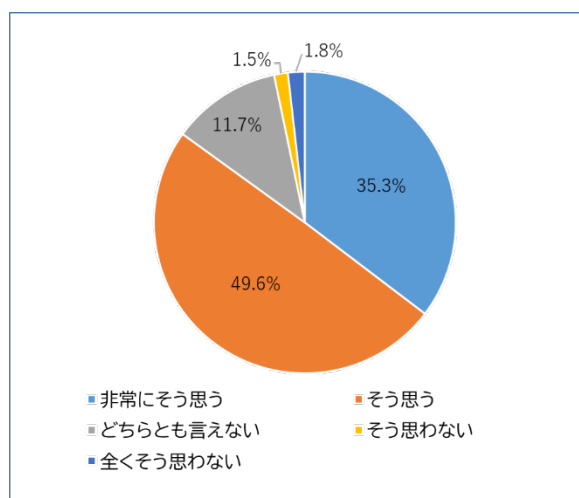
各科目の到達目標は、シラバスにおいて具体的に明示したうえで、目標の習熟度について、適宜小テストやレポート課題、定期試験を実施することによって確認した。

また、授業評価アンケートを実施し、授業内容の理解度の把握を行った。

この結果を教育システム改善委員会、教務委員会と連携し、プログラムの改善・進化の検討に活用する。

③学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

【設問内容】この授業を受けることで、自分の知識や考えが深まりましたか。				
非常にそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
35.3%	49.6%	11.7%	1.5%	1.8%



「授業評価アンケート」の設問において授業ごとの理解度やシラバスの学修到達目標の達成度を把握している。

今年度実施した科目全体で受講者の33.3%からアンケートの回答を得た結果、各科目について授業を受けることで、自分の知識や考えが深まったかの問いに対し、「非常にそう思う」と回答した学生が35.3%、「そう思う」と回答した学生が49.6%と、肯定的な意見が84.9%と非常に高い割合となった。来年度は、到達目標の達成度が相対的に低

かった科目において学習状況が順調でないと思われる学生を早期に抽出し、学習支援を充実していく必要がある。

④履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本教育プログラムは令和5年度開設であるため、現時点では2学年（令和5,6年度入学生）のみであり、全学的な履修率からみると履修率は低い。また、今後年次進行に伴い、収容定員に対する履修率は向上が見込まれるが、専門科目の単位取得に困難を感じてプログラムから離脱（履修取り消し）が生じることが予想される。今後も履修率の向上や離脱率を低下させるために、引き続き教務ガイダンスや学生向け広報、就職ガイダンス等で本教育プログラムの目的と学習内容の社会的有用性を学生に周知する。また指導教員等による履修指導でもプログラム履修の勧奨や修了に困難を抱える学生のサポートを強化することが必要である。

以上